2024年7月
第751号

日本基督教団　平塚教会
発行人　平塚教会
編集人　中山洋司
〒254-0045　平塚市見附町6-18
電話　〇四六三（32）八八三一

道徳を超越する傾聴

平塚教会牧師　北川一明

あなたがたに耳を傾ける者は私に耳を傾け、あなたがたを拒む者は私を拒むのである。私を拒む者は私を遣わされた方を拒むのである。

（ルカ一〇・16）

逝去者遺族など、深い悲しみに陥っている人を支援することをグリーフケアと言うそうです。グリーフは「悲嘆」の英語ですから死別以外にも様々な対象があります。大きな失敗、病気や怪我、失恋なども支援対象です。

ネットに「亡くなった人が親の場合は三年、配偶者ならば四年半～五年、子どもならば五年ぐらい回復に時間がかかる」とありました。そこでは「回復」がグリーフケアの目標とされているようです。しかし何をもって回復したとするかは多様ですし、悲しみをずっと抱えながらも魂は健全に保たれているということもあります。グリーフケアの目標も色々な考え方があり得るでしょう。

宗教もグリーフケアの役割を担っています。悲しみときちんと向き合わずに誤魔化すと、わだかまりが後まで残ることがあります。宗教儀式が悲しみと向き合う勇気を与えるのであれば幸いです。

社会的な儀式の他に個別の対話もグリーフケアに有効です。悲嘆を聞くことを「傾聴」と言います。普通の意味での「傾聴」が心理学用語として使われるようになりました。悲嘆に暮れる人は、その思いを言葉に表すことで悲しみと健全に向き合うようになります。自分の話を聞いてくれる人のいることも励ましになります。悲嘆を吐露することで癒やされるのです。

ただ聞く側の善意のアドバイスは、かえって相手を混乱させたり傷つけたりすることがあります。そこで傾聴は助言はしないでただ聞くだけが良いとされます。

「ただ聞くだけ」が難しいのは、悲嘆の話に終わりがないからです。人の嘆きや怒り悲しみは人の力ではどうすることもできない事情に依っている場合がほとんどです。気持ちを吐露してもただちに解決するわけ

目　次

道徳を超越する傾聴　牧師 北川一明 …1
二葉幼稚園の思い出　二宮　純子 …3
附属平塚二葉幼稚園百周年記念礼拝 …4
毎週のご奉仕に感謝いたします …4
編集後祈 …4

ではないので、悲嘆の吐露が延々と続きます。聞く側は適当な助言で話を切り上げざるを得なくなり「明るく前向きに頑張ろうヨ！」などとまとめようとします。クリスチャンが陥りがちな誤りは「でも神はあなたを愛しているのだから」と、みだりに神の名を持ち出すことです。語り手は元々傷ついている上に、自分の悲嘆を軽く扱われたという傷まで負うことになります。

そうならないように、カウンセラーは面談時間を厳密に設定します。堂々巡りになりがちな話を、設定した時間が断ち切り話を終わらせるからです。悲しむ人に対して冷たいように思えるかもしれませんが、実は傾聴を可能にする大原則です。語り手がもっと聞いてもらいたいと思ってくれればその対話は成功しています。日を改めて、また時間を制約しながら面談します。

時間さえ決めておけば聞くのは簡単です。でも語り手が求めるのは喋らせてもらうことではなく、気持ちを理解してもらうことです。そこで心理学者カール・ロジャースは傾聴の三原則として「肯定」「共感」「真実」を挙げました。語り手は聞き手が自分を受け容れてくれることを第一に求めているという考えからです。

相手を受け容れるには、まず批判を差し挟まずに聞く《肯定》が第一です。その上で悲しみ、苦しみ、悩みに共感したふりをするのではなく心から《真実》に《共感》すれば、語り手は大いに慰められ、癒やされます。

しかし他者の気持ちを百パーセント理解することはできません。ロジャースの三原則は、構造上、信仰のない一般の心理カウンセラーにはできないだろうと私はいぶかしんでいます。道徳よりも上位の価値を信じていなければ、悲嘆者に対する批判が生まれるからです。真の傾聴は人間道徳よりも大切な神を知る信仰者か、そうでなければ道徳に一切価値を置かないアナーキストにしかできないはずです。

愛する人を失った悲嘆には、経済的に生活の目途が立たなくなった嘆きがあるかもしれません。介護の負担が減った、遺産で贅沢ができるなど、喜びさえあるかもしれません。しかしその人が悪人というわけではありません。喜ぶ一面があったとしても、深く悲しんでいるのも事実なのです。

世間から見れば不道徳と言われかねない心の奥を自覚し自分で受け容れることができたとき、悲嘆者は一段階楽になります。喜びもあることを認めたために、かえって悲しみをきちんと悲しむことができるようになるのです。ですから聞く側は「愛する人が死んで嬉しい」という不道徳をも無条件に肯定し、真実に共感します。

虐めた級友が自殺したというケースで、加害者の悲嘆が《級友を死に追いやったこと》ではなく《無期限謹慎処分で受験が絶望的になったこと》だったらどうでしょう。それでも無条件に肯定して受け容れるのでなければ「傾聴」にはなりません。

ロジャース後「ラポール（信頼関係）形成」として共感のテクニックが種々提案されています。ただ相談者の悲嘆を「悪」と考えてはラポールは形成されません。罪の赦されていることを信じ、さらに今は利己的に考えている相談者も神の似像であることを信じれば、あるいは心から相手を肯定受容できるかもしれません。グリーフケアの目標は悔い改めに導くことではありません。時間を支配しているのは私たちではなく神です。人が悔い改めるタイミングは、私たちの知るところではありません。

クリスマスの思い出（比企清園長と共に）

二葉幼稚園の思い出

二宮　純子

私が平塚二葉幼稚園の門をくぐったのは、1956年幼稚園が出来て32年目の年でした。私は当時商店街の真ん中に住んでいて、近所のお友達は私より年上か年下で初めて同い年のお友達が大勢いるところに行ったので嬉しかったのを覚えています。入園を許されて桐の箱に入った幼稚園のバッジを時々眺めては、入園の日を心待ちにしていました。母が作ってくれたグレイにフェルトの赤い屋根の付いた草履袋も鮮明に覚えています。

比企先生は、もうだいぶお歳を召されていましたが、私達が砂場で遊んでいると、時々その様子をご覧になられている事がありました。腰が曲がっていられたのは、関東大震災の時に怪我をされた後遺症であったと後から伺いました。滅多にお目にかかることはありませんでしたが、クリスマスの時など大事な行事の時にお見えになり、その柔和な中にも凛とした佇まいに、子ども心にもいつも尊敬の念を持ってお迎えしていました。比企先生は幼稚園のみならず、街中の人からも尊敬されていました。

クリスマスの降誕劇は、背の高い順という事で、Y医院のU子ちゃんが天使、N肉屋のTちゃんがマリア、ヨハネの役はS石油のK君が務めました。背の低い私は役が付かずむくれていたら、比企先生にプレゼントを渡す役を仰せつかりました。比企先生は手を握ってくださりましたが、あまりに細い指に驚いた事が記憶にあります。

卒園写真を見ると、結構な人数の子が写っています。定期をぶら下げて海岸の方からも多くの子が通っていました。I薬局のKちゃんも大久保公園の方からバスで通っていましたが、帰りには先生が当時の市民センター前のバス停まで送っていました。

卒園してからも、先生方は街で会うといつも「純子ちゃん大きくなったわね」とお声掛けをして下さりました。私は見守られている気がして嬉しかったです。

後年、K君とは二葉の保護者として子どものお迎えの時に再会しましたし、Uちゃんとは西湘南地区の集まりで会う事がありました。会堂建築のバザーのポスターも園の近くのK館のKちゃんのお父さんは、わざわざベニヤの板に貼って旅館の門に掲出してくれました。地域に根付いて愛された幼稚園でありました。

子ども達を二葉に通わせていた頃、いつも月間予定表に「神は愛である」という御言葉が掲げてありました。そして、現在女性の社会進出に伴って多くなった働くお母さん、様々な異なる文化で育った子ども達を受け入れている平塚二葉幼稚園。

時代は変わっても、いつまでも主の御言葉に支えられて育っていく幼稚園である事を祈っています。

◎附属平塚二葉幼稚園

百周年記念礼拝

ペンテコステの日（5月19日）親子礼拝では、幼稚園・教会学校合同の幼稚園創立百周年記念礼拝が行われました。

最初に会堂席には、今年3月卒園児のご家族、主の祈りの後に、入園して間もないつぼみ組（三歳児）の園児も列席し、聖書を通して幼稚園創立時や比企清初代園長についてのお話を聞き、祈りを捧げることが出来ました。

主日礼拝は、幼稚園保護者の皆様と共に守り、神の恵みに満ちた一日となりました。また、多くの卒園生も列席して下さり、中には60年前の卒園生も紹介され、会堂は拍手で包まれました。

列席の皆様には、記念品として幼稚園ロゴ入り饅頭が、園児には百歳のお誕生祝ケーキがプレゼントされました。

お誕生 100 歳ケーキ

ロゴ入り饅頭

◎毎週のご奉仕に感謝いたします

教会を訪れると、まず目に入る玄関脇の掲示板。主日礼拝の説教題と聖書個所が毎週新たに掲示されています。行きかう人も立ち止まって読んでいます。

このご奉仕は、武田幸太郎兄（日本基督教団浅草教会教会員）が担って下さっています。阿部雄次前牧師の依頼を受け、10年以上に渡り毎週筆を執り、ご家族の方が届けて下さっています。長い間のご奉仕に感謝いたします。

【編集後祈】

幼稚園では、満三歳児の保育室が新設中です。創立百年の幼稚園、少子化・社会の変化の中で幼稚園にも大きなうねりがあります。主に祈り、不易流行は何かを考える時なのでしょうか。

（編集子）